



初のApple Silicon搭載Macは「Air」の一択



2020年11月11日、米アップルがARMアーキテクチャー（基本設計）の独自CPU「Apple Silicon」を初搭載した新型「Macシリーズ」を発表した。従来の米インテル製CPUからの変更で、「M1」と名付けられた新CPUが、「MacBook Air」「MacBook Pro」「Mac mini」の3モデルに搭載された。この中で一番の「おすすめモデル」はどれだろうか？

スペックは横並びのApple Silicon搭載Mac

新型Macシリーズ仕様表モデル名 MacBook Pro MacBook Air Mac

Mini ディスプレー 13インチ Retina 13.3インチ Retina なし プロセッサ 8コア(4x高性能、4x高効率)

Apple M18コア(4x高性能、4x高効率) Apple M18コア(4x高性能、4x高効率) Apple

M1グラフィックス8コアGPU(M1)7コア /

8コアGPU(M1)8コアGPU(M1)記憶容量256GB/512GB/1TB/2TB 256GB/512GB/1TB/2TB 256GB/5

12GB/1TB/2TB メモリー 8GB/16GB 8GB/16GB 8GB/16GB 無線LAN 802.11 ax WiFi 6 802.11 ac

WiFi 802.11 ax WiFi 6 カメラ 720P FaceTime HD 720P FaceTime

HDなし オーディオ ハイダイナミックレンジ ステレオ スピーカー ステレオ スピーカー スピーカー バッテ

リー 58.2Wh 49.9Whなし 駆動時間 20時間 18時間なし サイズ 高さ 156 x 幅 304 x

奥行き 212mm 高さ 161 x 幅 304.1 x 奥行き 212.4mm 高さ 3.6 cm x 幅 19.7 cm x 奥行き 19.7

cm 重さ 1.4kg 1.29kg 1.2 kg 税別価格 13万4800円～10万4800円～7万2800円～

スペックを見ると、ほぼ同一と言ってよい。インテルMac時代は上位CPUの搭載やメモリー容量で「格差」をつけていたAirとProだが、Apple

Silicon時代の1号機は同じM1を搭載、メモリーも同容量になった。これはCPUの処理能力が同じなので、ソフトウェアスペース（作業場）となるメモリー容量も同じで問題ないということだろう。

主な違いは無線LANの仕様で、ProとMiniは上位規格の「802.11 ax

WiFi 6」を搭載している。オーディオもProはより高音質なスピーカーを採用しているが、日常使いでは気にならない。そもそも音にこだわるのなら、外付けスピーカーを利用すべきだ。

Airがオススメだが、不満も

デスクトップを選ぶならMiniしか選択肢はないが、ノート型と同じ性能というのは物足りない。もともとMiniはそういう位置づけの機種ではあるが、新たにデスクトップのMacを購入するのなら、「M1」の改良系か「M2」が採用されるオールインワン（ディスプレイ一体型）デスクトップの次期「iMac」を待つのが得策だ。現行Miniの買い替えであれば、価格も1万～2万円下がっているApple Silicon搭載機を選択してもいいだろう。

3モデルで買い替えを推奨できるのは、上位機のProとほぼ同機能となったAirだ。バッテリー駆動時間こそ18時間と2時間短い、インテルMac時代の12時間に比べると1.5倍に延びており、実用上は問題ない。

Apple Silicon搭載で下位機のAirと差別化できなくなったPro（同社ホームページより）

Proと同じ8コアGPUモデルを選択すれば12万9800円になるが、このモデルのストレージは512GB、メモリーは16GBに増量する。同仕様のProの価格は15万4800円なので、2万5000円安い。しかも重量は110g軽い。Apple Silicon第1世代はAirの一択と言っていいだろう。

ただ、Airにも不満が残る。重量だ。インテルMacと同じ筐体を流用したため、重量は全く同じ。インテル搭載モデルを併売するProは流用も仕方ないが、AirはApple Siliconモデルのみになった。ならば筐体を専用設計モデルとし、軽量化を果たしてほしかった。

もっともアップルはApple

SiliconのM1を搭載した「MacBook」を再投入するとの情報もある。MacBookは2019年7月に販売を終了したが、重さ920gとシリーズ最軽量機だった。同じ筐体を流用したとしても1kgを切るだけに、登場を期待したい。

文：M&A Online編集部